

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、鎌倉幕府の政治のしくみや外国との関係、室町時代の文化など、歴史的分野においておおむね知識の定着を図ることができている。また、ヨーロッパ州の気候の特色について主体的に学習に取り組む態度の高まりが見られる。
- ・第3学年では、地理的分野における日本の農業の特色や、歴史的分野における鎖国下の対外関係、江戸時代の産業の特色についておおむね知識の定着を図ることができている。また、日本の各県の統計や日本の貿易について、資料を基に考察することがおおむねできている。

(2) 課題

- ・第2学年及び第3学年ともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したりする力を一層育成する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	達成率は50%に止まり、目標値に達していない。正答率も目標値を下回っている。	/	/
第2学年	達成率は昨年度より1.2ポイント上昇したものの、目標値に達していない。	達成率は50%に止まる。正答率も目標値に達していない。 (第1学年時)	/
第3学年	正答率は前年度よりも2.4ポイント上昇したものの、目標値に達していない。	達成率は50%に止まる。正答率も目標値に達していない。 (第2学年時)	達成率は60%を上回り、区の平均達成率を上回った。正答率も目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に達していない。品種改良や太平洋ベルトなど、基礎的な語句を答えさせる短答式の問題で正答率が低い。日本国憲法についての理解は目標値をほぼ上回った。	目標値に達していない。資料を読み取り判断する問題で正答率が低い傾向がある。記述式になると、書けずに無解答の割合も一定数ある。	目標値に達していない。日本の食料生産について、生産者の工夫や自然環境との関わりなど、複数の視点で資料を読み取り判断する力を育成することが不十分である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に達していない。世界と日本の地域構成、古代までの日本についての理解が十分ではない。資料から社会的事象の特色や課題を読み取ることが十分にできていない。	目標値に達していない。複数の資料を基に、社会的事象の特色や意味を考察し、表現することに課題がある。記述式の解答では、一層達成率が低くなっている。	目標値に達していない。暖流や偏西風がヨーロッパ州の気候に与える影響についての理解を基に、パリと同緯度の都市の気候を考察することについて、目標値を上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に達していない。知識に関しては短答の問題になると目標値を大きく下回る。基本的な知識の定着が不十分である。	目標値に達していない。複数の資料を基に、社会的事象の特色や意味を考察し、表現することに課題がある。	目標値に達していない。日本地理に関しては比較的目標値に近い数値になっているが、近世・近代史の数値が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとの振り返りを着実にやり、基礎的な語句の確認も併せて行う。ICT機器を活用して、統計資料や歴史資料を読み取るポイントを視覚的に提示する。	単元ごとの見通しや振り返りで、自分の言葉で文章化する学習習慣を身に付けさせる。タブレット等を通じて、少人数グループで意見を出し合い発表する機会を意図的に増やしていく。	ICTを活用して映像資料など視覚的教材を提示する機会を増やすとともに、調べ学習を通じて必要な資料を自主的に見つけ出す態度が身につくよう支援していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習課題に対するまとめを毎時間単元見通し・振り返りシートに記述することで知識の定着を図る。資料を読み取る際、読み取る時間を確保する。また、ICTを活用して資料を提示し着目する点を確認する。	複数の資料を読み取る際、資料をどのように関連付けたのかをグループなどで話し合い、多様な見方・考え方を共有する。一人1台端末を用いてグループや学級全体で考えを共有し、他者の考えを踏まえ、自分の考えを広げ深めたことを記述する機会を計画的に設ける。苦手な生徒も学び合うことで、考察できるようにする。	一人1台端末を用いて単元見通し・振り返りシートを提出し確認することで、単元の学習課題と各時間の学習課題の関連を図りながら主体的に課題解決を図ることができるようにする。社会に見られる課題と生活との関わりが分かるような資料を提示する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに振り返り、知識の定着を図る。ICTを活用し、注目すべき資料を視覚的に提示して理解を促す。定期的に資料を読み取る課題を提示し、取り組ませる。	単元ごとの振り返りで、学習課題とその解決について論述する。グループワークを取り入れて、他者の意見を踏まえて自分の考えを深める機会を設ける。	ICTを活用して、単元の見通しを立てる。一人1台端末を用いて、関心を深めて、授業の振り返りをおこなう。単元の学習課題と各時間の学習課題の関連を図りながら主体的に課題解決を図ることができるようにする。